

短期海外研修の成果の活用状況

令和7年度

テーマ	研修成果の活用
海外空港における環境対策に関する調査 (オランダ・ドイツ) 【総合企画部・環境生活部】	・海外空港における航空機騒音に関する環境対策の実施状況や、騒音下住民とのコミュニケーションのあり方等を調査した。 ・今後も関係市町と連携し、国や空港会社に対して、各種協議会の場などを通じて地域住民の意見をしっかりと受け止め、騒音下地域に必要な環境対策を着実に実施するよう求めていく。 ・航空機騒音測定に当たって、海外技術者の認識や最新技術の導入状況を実地で確認し、意見交換を実施した。 ・航空機騒音監視システムの更新において、導入する最新技術の参考とすることで、航空機騒音識別精度の向上等を図る。
シンガポールにおけるデジタルツイン技術の土木行政への活用 (シンガポール) 【県土整備部】	・デジタルツイン技術の活用により、住民理解、合意形成を促進し、工期短縮、コスト縮減、職員負担の軽減が期待できることが把握できた。 ・道路・河川管理や災害対応など、効果が期待できる分野から実証を重ね、必要なデジタル基盤を整備しながら段階的に導入を進める。 ・取組状況や成功事例を共有し、業務効率化への意識を高めることで、県民サービスの向上と職員の働き方改革につなげる。

令和6年度

テーマ	研修成果の活用
米国における道路メンテナンスについて (アメリカ) 【県土整備部】	・道路メンテナンスの先進国といえる米国において、維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や、新技術等の導入によるメンテナンスの高度化・効率化等に関する取組状況を調査することができた。 ・研修で得た知見から、千葉県の道路施設長寿命化修繕計画の充実化を図り、我が県における道路メンテナンスの取組推進に寄与することで、安定かつ持続可能な公共サービスの実現に取り組む。

令和5年度

テーマ	研修成果の活用
ドイツ、オランダとの文化交流の振興に向けた現地調査 (ドイツ・オランダ) 【環境生活部】	・令和6年6月2日に、ドイツ・デュッセルドルフ市とアーティスト交換に関する協定を締結した。双方の文化面での協力関係を具体的に進めるため、千葉県とデュッセルドルフ市により、滞在制作を伴うアーティストの交換事業を実施していく。 ・令和6年9月18日～11月17日に、千葉市花見川区出身の花澤武夫氏が第1回の派遣アーティストとしてデュッセルドルフに滞在した。翌年2月27日～3月16日には県立美術館内で成果展を開催した。 ・令和7年10月22日～12月17日にかけて、デュッセルドルフ市からクリストフ・ヴィーデマン氏が来日し、千葉県立美術館で滞在制作を実施、12月3日～14日にかけて成果展を開催した。
台湾原住民族のキョンの狩猟方法に関する調査 (台湾) 【環境生活部】	・原住民族から得た知見を踏まえ、令和6年度はキョンの捕獲に適したくくりワナの改良に関する実証実験を実施した。 ・実証実験で得られた知見を、キョンの捕獲に取り組む市町村や捕獲従事者等と共有することで、キョン捕獲の一層の強化を図っていく。
ドイツにおけるスタートアップ国際展開支援策に関する調査(ドイツ) 【商工労働部】	・起業家育成、スタートアップ支援に力を入れている千葉大学や国立がん研究センター東病院と連携し、スタートアップの国際展開や外国スタートアップの誘致を進めていく。
流域治水におけるグリーンインフラ活用の先進事例調査 (シンガポール) 【県土整備部】	・流域治水の推進にあたってはあらゆる関係者の意識醸成が重要であり、自治体職員や流域関係者等との情報共有を進めている。 ・グリーンインフラ活用の取組や効果を様々な媒体を用いて広く情報発信し、関係者の更なる意識醸成を図っていく。
ウォーカブルなまちづくり (居心地が良く歩きたくなるまちなか)について (ドイツ・オランダ・ベルギー) 【県土整備部】	・日本の都市計画の手本となったドイツや近隣のオランダ、ベルギーの都市では、市民自らの手で歩行者優先のまちづくりをしていくという意識の強さが行政を動かし、官民連携で地域全体の賑わい創出に取り組んでいる状況を把握できた。 ・研修で得た知見をもとに、県及び市町村において県内事例と比較研究することにより、県内におけるウォーカブルなまちづくりの実現に向け検討していく。